

## 暗渠空間の開放と再提案 Open and re-proposal of the culvert space

佐藤信治<sup>1</sup>, ○大石展洋<sup>2</sup>  
Shinji Sato<sup>1</sup>, \*Nobuhiro Oishi<sup>2</sup>

Tokyo has nearly 180 rivers. Most of these turned into the Dob River as the population increased in the city from the reconstruction of the Great Kanto Earthquake to the period of high economic growth. In addition, because it was flooded by rain, etc., construction was carried out to darken nearly 80 rivers to enrich life.

Those rivers were darkened with box culverts. Due to strength and width, the space was diverted to promenades and green paths. But did the darkened river really enrich the people?

There is nothing on the darkened river, and the darkened river and the developed architecture on its side interacted with each other, resulting in a closed space surrounded by buildings in the daytime. At night, it became dark from a closed space and became a hangout, making it a homeless residence.

People who live next to a river that has been darkened now don't that it was a river and there is no mutual community across the road.

I will reconsider the space where there is no clear purpose for this problem. I rethink the space that is darkened and does not have a clear purpose. Specifically, it restores the natural landscape and creates an oasis in the city center. In addition, by incorporating a Japanese culture of drinking, a space where cheerful and hardworking Japanese people become cheerful is born. I think that this space will be brighter both physically and mentally, leading to problem solving.

### 1.はじめに

東京都は 180 近くの河川が存在していた。関東大震災の復興から高度経済成長期にかけて都心に人口が増えたことでこれらの大半がドブ川と化した。また雨などで氾濫してしまうことから生活を豊かにするために 80 近くもの河川に暗渠化する工事が行われた。

それらの河川はボックスカルバートで暗渠化された。強度や幅の関係上、空間は遊歩道、緑道へ転用された。しかし暗渠化された河川は本当に人々を豊かにしたのだろうか。

暗渠化された河川の上は何もなく、暗渠化された河川とその側にある開発されていった建築が相互に影響しあった結果、昼間は建物に囲まれた閉鎖的な空間となる。夜間は閉鎖的な空間から暗くなり、溜まり場となってしまふことでホームレスの住居となってしまった。

現在暗渠化された河川の横に住んでいる人々はそこが河川であったことを忘れ、道を挟むことで相互コミュニティは無い。

私はこの問題に対し、暗渠化されて明確な目的が

なく存在する空間を再考する。具体的には自然の風景を復活させ都心のオアシスを作る。さらに日本独特の飲酒の文化を組み込むことで、シャイで勤勉な日本人でも陽気になる空間が生まれる。この空間は物理的にも精神的にも明るくなり、問題解決に繋がると考える。

### 2.基本方針

都市に流れる暗渠化された河川とその周辺施設を見直すことで問題解決につながると考えられる。

暗渠化された河川の蓋を開け隣接する建物の回収とランドスケープを提案することで親水空間として人々に再認識させる。

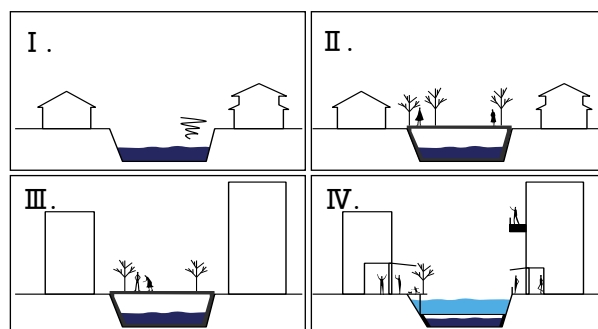


Figure1: Open river to town

1:日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2:日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

### 3.計画背景

#### 3.1 日本の酔っ払い文化とゴミ

日本は世界的に見ても飲酒を愛する国で酔っ払っている姿は海外からの反応も様々あり、身ぐるみを剥がされないことや勤勉な日本人も陽気になる、など日本人の酔っ払い文化が珍しい。

しかし酔っ払い文化にはゴミ問題も目に入る。日本はゴミが落ちてなく綺麗な街と言われるが夜の繁華街はいたるところにコンビニ酒の空き缶や瓶が散乱している。

#### 3.2 インバウンドと居酒屋

近年海外で日本酒ブームが起きており、年々日本酒の輸出量を更新し続けている。その日本酒を味わいに日本に観光しに来る外国人観光客も増えている。それらの外国人観光客はそのままの日本文化に触れることを目的として来る。その中でも居酒屋体験することで日本の酔っ払い文化を直で感じることができる体験は外国人観光客にはウケがいいようだ。

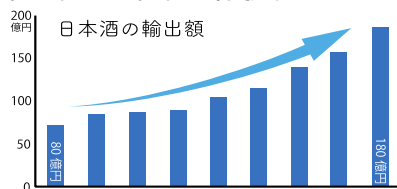


Figure 2: Sake export value

### 4 基本計画

都心を流れる暗渠化から開放された河川を中心にインバウンドを対象とした宿泊・観光施設・居酒屋・ゴミ対応施設を計画し、都心のオアシスを計画する。

#### 4.1 施設の機能

- (1) 宿泊
- (2) 観光施設
- (3) 居酒屋などのテナント
- (4) ゴミ対応施設

#### 4.2 敷地選定

以上の計画に伴い以下の選定条件があげられる。

- (1) 暗渠河川があること
- (2) 外国人観光客が多いこと
- (3) 夜には酔っ払いが多く発生すること

以上の条件より渋谷地区を設定敷地とする。



Figure 3: Shibuya Map

### 5 建築計画

以上により提案を行う。

コンクリートジャングルと称されている東京都にオアシスをつくるにあたり渋谷再開発で上に上に伸びているビルとは逆に河川の地を這うような建築を提案する。車の利用が少ない暗渠化された河川は蓋を取り除き川沿いには親水空間をデザインする。

テナントは外国人観光客にわかりやすくする対策を行う。海外のカフェテリアのようなオープンスペースを日本に適した形に置き換え計画する。

宿泊施設は夜遅くまで遊んでいる旅行者や泥酔者を受



Figure 4: Shibuya view

け入れる施設として機能する。

また、路上に散乱するゴミは河川に隣接する商業施設などの地下に貯蔵、再利用、処理できるような施設を計画する。

再開発が行われているエリアとは相対するような軽いうるすることで、渋谷全体をかつてのめぐり歩きたくなるような街の計画を行う。



Figure 5: River flowing through Shibuya

[1] <https://mizbering.jp/archives/13635>

[2] <https://sideline-lab.com/japan-is-rare-in-the-world-drinking-generous-country/>

[3] <https://www.asahi.com/articles/ASM1S4W7YM1SPTIL01B.html>